

貧者解放へ身を粉に

ともに生きて

賀川豊彦 活動開始100年

1921(大正10)年7月、神

戸で川崎造船所(現川崎重工業)

と三菱造船所(現三菱重工業)の

労働者がストライキに突入し、約

3万人がデモ行進した。先頭に立

った参謀の一人が賀川豊彦だっ

た。賀川はストライキだけでなく、

労働者が工場を管理し、生産を再

開する「工場管理」の必要性を提

唱した。

その後、争議団は経営者側の切

り崩しに遭い、結束しようと再び

労働運動

行進したとき、凶らずも警官隊と衝突した。賀川ら幹部は逮捕され、指導者を失った争議団は敗北宣言を出した。

だが、この戦前最大の労働争議は、労働者が権利を主張する契機となったといわれる。賀川は関西労働界のニューリーダーの一人として、労働者の権利向上を目指し、普通選挙運動にも奔走した。

元連合兵庫副事務局長で川崎重

権利獲得の土台築く

工労組顧問の長谷川俊(59)＝明石市＝は、神戸YMCA主事だった父が、信念の人・賀川についてよく話していたのを思い出す。「だが、現在の労組関係者で賀川のことを語る人はまずいない」と話し、その理由をこう分析する。

戦時色が強まるにつれ労働運動は弾圧を受け、40(昭和15)年、労働団体「日本労働総同盟」は解散。それに代わって、政府は産業報国会を組織し、労働者を戦時体制に組み入れた。

戦後、労働組合法が施行され労働運動は復活したが、組合費の給与からの天引きや事業所ごとの組織など、産業報国会の内容を継承した部分が多かったという。長谷川は言う。「このとき、戦前の労働運動のよい部分を引き継げなかった」

その後、労組の組織は曲折をた

どる。同盟や総評などの労働4団体が統一され、中央組織「連合」が結成されたのは1989年。20年がたち、民主党を支持する連合は今年、政権交代で「与党」の立場になった。

だが結成時と比べ、組合員数は約130万人減った。また、1000人以上の企業の組織率は4割を超えるが、100人以下の中小・零細企業は約1%にすぎない。完全失業率は5%を超え、「貧困」が社会問題化する中、働く人の3分の1に達する非正規労働者にも、連合は十分対応できていないように映る。

●8時間労働の記念碑前で労働運動への思いを語る長谷川俊さん(神戸市中央区東川崎町1)(撮影・岡田育磨) ●三菱・川崎大争議団のデモ行進の先頭に立つ賀川(右端) 1921年

大正・昭和初期の労働運動史に詳しい武蔵野大学講師(日本政治史)の小田義幸(33)は「非正規労働者や貧困者の支援は、大企業出身のリーダーが占める連合より、むしろNPOなどに期待したい」と話し、こう付け加えた。

「支援団体の連携を図り、大きな活動につなげるには、賀川のような人物の登場が待たれる」

冒頭の労働争議で逮捕された賀川が、留置場で詠んだ詩がある。「弱者 貧者の解放の為に身を粉にして働いて居るのだ(中略) 私が善いと思ふたことは死地に陥入れられても決行する(詩集「永遠の乳房」、1925年刊)」

弱者や貧者の権利獲得の土台を築いた賀川。いま一度、その功績が見直されている。 敬称略 (河尻 悟)

